

# サーベイ実験の再現可能性と外的妥当性

—オンラインフィールド実験による追検証—

Web Appendix

善教将大 坂本治也

2020年3月20日

## A. オンラインフィールド実験

### 1. 事前の説明

オンラインフィールド実験は、(1)実験実施前に調査協力の謝礼とは別に 100pt の追加謝礼を付与する、(2)この 100pt を使ってある熊本の団体に寄付するかどうかを判断する、(3)寄付したポイントについては、実際に自分の手元からなくなる、(4)寄付は義務ではないので、寄付しないと言う選択も問題ない、という点を実験の直前に説明した上で、オンライン上で実施した。この(2)と(3)は、後述するように偽情報であり、最終的には実験協力者全員に対して追加で 100pt 付与するのだが、実験実施前にはその情報は伝えていない。実際に実験参加者に提示した文言は以下の通りである。

次が最後の質問文です。ここまでの調査へのご協力、ありがとうございました。質問に回答する前に、以下の説明に目を通してください。**とても重要なことが記されています**。絶対に読み飛ばさず、必ず、すべてに目を通してください。

1. 次の質問に回答される方には、通常の謝礼とは別に **100 ポイントが追加されます**。
2. 次の質問はこのポイントを使って **ある団体にどのくらい寄付するか**を判断してもらうものです。
3. 具体的には、**実際に熊本で活動をする団体のチラシ**が提示され、それを見ながら寄付するかどうかを判断してもらいます。ただし団体を特定できないようにチラシの内容には若干の修正を加えています。
4. 寄付されたポイントは、その団体が活動するための資金として**楽天リサーチを通じて配分され、残りがあなたの獲得ポイントとなります**。例えば 50 ポイント寄付した場合、あなたに付与される追加ポイントは  $100-50=50$  ポイントです。
5. 寄付は強制されるものではありません。寄付したくない団体の場合は、寄付しなくても問題ありません。

以上について全て目を通し、理解したので次に進む

### 2. 実験に使用したヴィネット

フィールド実験に利用したヴィネットは、善教・坂本(2017)のそれとほぼ同様であるが、主体特性、管理運営費、返礼の 3 要因については 2 水準のうちいずれか 1 つが、それ以外の 7 つの要因については水準が固定されているという 2 点は大きく異なる。実際に実験参加者に提示したヴィネットは以下の通りであり、無作為に表示が変わる要因については【】で囲っており(ただし実際の実験画面

では【】で囲っていない), この中の2つの水準のうちの1つが表示されるデザインとなっている。

### <寄付のお願い>

はじめまして。私は【ボランティア団体 / NPO 法人】復興の会の代表の\*\*  
\*\*と申します。このたびは熊本県における地震災害からの復興活動への寄付を  
お願いしたく、ご連絡差し上げました。

現在、私たちは被災者支援事業などのための活動支援金としての寄付金を募集  
しております。既におよそ5000人の方から1人あたり約1000円の寄付金を頂い  
ておりますが、未だ十分な活動を行える状態ではございません。一日も早く復興  
を進めるために、どうぞ寄付をよろしくお願い致します。なお、寄付金のうち復興  
の会の管理運営費として使用させて頂く割合は【0 / 30】%です。

私どもは10年以上支援活動を行っている団体であり、行政からも高い評価を得  
ております。なお、当寄付は寄付金控除の対象とすることができます。また、  
寄付して頂いた方々につきましては【当団体の会員登録書 / 寄付者の名前を  
記した活動報告書】を送付させて頂く予定です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

あなたは、この団体に寄付しようと思いませんか、それともそうは思いませんか。ま  
た寄付する場合、どのくらい寄付しますか。あなたが寄付したいと考えるポイン  
ト数(0~100)と同じ場所に、下のバーを動かしてください。寄付したいと思わな  
かった場合は、0にバーを動かしてください。

\* 追加謝礼を支払う都合上、この質問には必ず回答してください。

### 3. デブリーフィング

オンラインフィールド実験は、先に述べたように偽情報を実験参加者に提示  
しているため、本研究ではオンラインフィールド実験後にデブリーフィングを  
行なった。具体的には以下の画面を提示し、虚偽の情報を与えたことについて  
謝罪した上で、実験参加者に何が虚偽の情報であったのか、実際に追加謝礼は  
支払われるのか、といった点について説明する内容とした。

これにて調査は終了です。長時間にわたるご協力、ありがとうございました。以下に重要な情報が記されておりますので、必ず目を通してください。ここで調査画面を閉じると回答を途中で終了したとみなされますので必ず次の画面に進んでください。

先ほど、以下の5点について説明させて頂きました。

1. 回答者に100ポイントの謝礼が追加されること
2. この100ポイントを使って寄付するかを判断してもらうこと。
3. 実際に熊本で復興活動をする団体のチラシが提示され、寄付するかどうかを判断すること。
4. 寄付したポイントは、楽天リサーチを通じて配分され、残が獲得ポイントとなること。
5. 寄付したくない団体だと感じられた場合は、寄付しなくても問題ないこと。

以上のうち、**3. と 4. については調査上の都合で偽情報を提示させて頂いておりました。**申し訳ございませんでした。

正確には、

- ・提示させて頂いたチラシは**架空のチラシ**です。
- ・寄付して頂いたポイントは**活動資金として配分されません。**

※回答者には**ご協力頂いたポイントとしてきちんと100ポイントが追加されます。**

大規模震災からの復興に向けて、多くの団体が各地で活動しております。今回の調査をきっかけに、寄付する予定であったポイント分について、何らかの団体に寄付をして頂ければ幸いです。

以上に同意し調査を終了する

## B. ウェイト補正前と補正後の比較(割合)

	実際の値 (国勢調査)	補正前 推定値	補正後 推定値		実際の値 (国勢調査)	補正前 推定値	補正後 推定値
<b>性別</b>				<b>年齢</b>			
男性	49.00	49.27	49.00	18-29	15.35	15.51	15.35
女性	51.00	50.73	51.00	30-39	16.21	16.1	16.21
<b>市郡規模</b>				40-49	19.10	19.08	19.10
政令市・23区	27.44	54.11	27.40	50-59	16.04	15.99	16.04
30万以上の市	15.19	23.13	15.19	60-69	18.79	18.84	18.79
30万未満の市	48.27	16.03	48.27	70-79	14.51	14.48	14.51
町村	9.1	6.66	9.10				

## C. 図1の推定結果の詳細

	dep.=寄付金額			dep.=寄付確率		
	coef.	std. err.	sig.	coef.	std. err.	sig.
NPO 法人	-4.286	1.3414	0.0014	-0.058	0.0192	0.0029
運営費 30%	-9.214	1.3424	0.0014	-0.062	0.0193	0.0014
名前の入った 報告書	-1.059	1.3404	0.4297	0.027	0.0193	0.1661

注) 共変量として性別, 年齢, 震災寄付経験(熊本), 他者への同情を投入している。

## D. 因果効果の異質性の分析結果

因果効果の異質性を検証するため、共変量との交差項を推定した。その結果、年齢変数との交差項のみ、統計的に有意だという結果となった。この結果は、年齢によって平均因果効果の推定結果が異なることを示す。主効果と交互作用項の推定結果から判断すると、年齢が高くなるにしたがい、平均因果効果の値が大きくなると考えられる。

	dep.=寄付ポイント			dep.=寄付確率		
	coef.	std. err.	sig.	coef.	std. err.	sig.
NPO 法人 ×年齢	-0.1831	0.0835	0.0284	-0.0020	0.0012	0.1000
運営費 30% ×年齢	-0.2463	0.0834	0.0032	-0.0018	0.0012	0.1293
名前の入った 報告書×年齢	-0.2153	0.0837	0.0101	0.0030	0.0012	0.0124
NPO 法人	4.7041	4.3393	0.2784	0.0395	0.0625	0.5272
運営費 30%	2.9765	4.3364	0.4925	0.0287	0.0624	0.6457
名前の入った 報告書	9.5897	4.3493	0.0276	0.1757	0.0626	0.0051
年齢	0.4142	0.0861	0.0000	0.0035	0.0012	0.0053

注) 共変量として性別，震災寄付経験(熊本)，他者への同情を投入している。

## E. IMC と DQ による Satisficer の識別

### 1. IMC による識別

以下に示す長文の教示文を提示した上で、きちんと「何も選ばずに」次のページに進むかどうかと言う点から Satisficer か否かを識別した。下記の質問の一部，あるいは全てについて回答した実験参加者を Satisficer とし，警告文を提示した。

以下の文章に目を通してください。

人間の意思決定に関する近年の研究で、人間の決定は「真空」状態で行われるものではないことが知られています。個人の好みや知識、そしてその人がそのときどんな状況にあるかが、意思決定過程に重要な影響を及ぼすのです。われわれはこうした意思決定過程の研究のため、あなたの意思決定者としてのある要素を知りたいと考えています。つまり、あなたがこの指示を、時間をかけてよく読んでいてかどうかに興味があるのです。そこで、あなたかがこの指示をお読みになったなら、以下の項目のいずれもチェックをせずに(つまりどの選択肢もクリックせずに)次のページに進んでください。何もクリックしない場合警告文が出ますが、その指示は無視してください。もし誰もこの指示をお読みになっていないとしたら、指示内容を変えることが意思決定に与える影響を見たいという我々の試みは成功しているとはいえません。どうぞよろしくお願い致します

- ・政治家は税金を無駄遣いばかりしている
- ・政府の対策が不十分なので日本の景気は良くならない
- ・政治家の汚職は社会を動かすための「必要悪」である

【そう思う/ややそう思う/どちらともいえない/あまりそう思わない/そう思わない】

先の質問であなたは、「以下の項目のいずれもチェックをせずに次のページに進んでください。何もクリックしない場合警告文が出ますが、その指示は無視してください。」と記されていたにも関わらず、一部あるいは全部の質問に回答しました。

このような教示文を読み飛ばす行為は、調査結果の歪みを生じさせる原因となります。再度このような不適切な回答を確認した場合、調査を途中で終了させて頂く可能性もございます。

以降の質問文では、必ず教示文に目を通した上でご回答ください。お願い申し上げます。

## 2. DQによる識別

10項目からなるマトリクス型の設問の中に以下の項目を組み込み、Satisficerを識別した。「ややそう思う」以外を選択した回答者をSatisficerとする。DQの場合には以下に示す警告文を表示し、読み飛ばし行為を行わないことに同意してもらった上で、調査を継続してもらった。

- ・この項目では「ややそう思う」を選択してください

あなたは先の設問にあった「ややそう思うを選択してください」という設問においてややそう思うを選択しませんでした。このような読み飛ばし行為は、調査結果の信頼性などを損ねることになります。

以降の設問では、必ず教示文に目を通すよう、よろしくお願い申し上げます。

教示文に目を通すことに同意し、次の設問に進む

## F. 共変量の操作的定義

### 1. 市郡規模

現在お住いの市区町村の規模はこの中のどれに当たりますか。【政令市もしくは東京 23 区/人口 30 万人以上の市/人口 10 万~30 万人未満の市/人口 10 万人未満の市/町村】

### 2. 寄付経験(熊本震災)

2011 年 3 月 11 日に、宮城県仙台東方の海底を震源とする巨大な地震災害が発生しました(東日本大震災)。また 2016 年 4 月 14 日には、熊本県で最大震度 7 を観測した地震災害が発生しました([平成 28 年]熊本地震)。あなたは東日本大震災と熊本地震からの復旧・復興のために、金銭的、あるいは、物的な支援をどのくらい行いましたか。それぞれについて、該当する選択肢を 1 つ選んでください。

- ・熊本地震【10 回以上支援を行なった/6-9 回支援を行なった/3-5 回程度支援を行なった/1-2 回程度支援を行なった/一度も行わなかった】

### 3. 他者への共感に関する態度

他者の共感に関する以下の意見や考え方について、あなたはどのようにお感じになりますか。それぞれの意見について、あなたのお気持ちに近い選択肢を 1 つ選んでください。

- ・困っている人がいたら助けたい【非常に当てはまる/ある程度あてはまる/どちらとも言えない/あまりあてはまらない/まったくあてはまらない】